


施設名	清水谷精錬所 選鉱場・跡								
所在地	島根県 大田市								
管理者等	大田市								
施設種類・分野	建築								
施設概要 (明治期との関連含む)	<p>明治時代になると、石見銀山では、一部の既存の間歩(坑道)を利用した地元の人たちによる小規模な採掘がかりうじて続いていましたが、明治19年に大阪の藤田組が、仙山(せんのやま)の福石鉱床の金銀含有率と量に着目し、近代的な製錬所を建設しました。しかし鉱石の品質が予想より悪く、また設備の銀の製錬能力もなかったことから不採算となり、明治29年で操業を停止しました。その施設跡です。(文献2より抜粋)</p>						 <p>出典: Fukutomi design office</p>		
築造時期	明治中期				時期詳細	明治28年→1年半で廃止			
関連人物	藤田組 藤田伝三郎、設計 武田恭作氏(当時東京帝国大学冶金学科学学生)								
関連企業	藤田組								
トピックス (特徴的エピソード)	<p>徳川幕府が崩壊し、明治時代になると、石見銀山では、一部の既存の間歩(坑道)を利用した地元の人たちによる小規模な採掘(さいこう)がかりうじて続いていましたが、本格的な銀生産の再開は、明治19年(1886)に秋出身の藤田伝三郎たちが起業した大阪の藤田組(現在の同和鉱業株式会社の前身)による採掘権(借区権)の入手を待ちます。藤田組は、仙ノ山(せんのやま)の南側の本谷地区の福石鉱床の金銀含有率と量に着目し、それによる銀生産を計画、明治27年(1894)武田恭作氏(当時東京帝国大学冶金学科学学生)の設計による近代的な銀の製錬所の建設を開始し、20万円の巨費を投じて翌年に完成、4月から操業を開始しました。</p>								
歴史的な遺産等の指定の有無等	○	選奨土木遺産(土木学会)	—	文化財(文化庁)	—	近代化産業遺産(経産省)	—	世界遺産(ユネスコ)	○
その他 (関連資料、文献)	<p>文献1: 土木学会 日本の近代土木遺産(改訂版) 文献2: Fukutomi design office (http://fukumitsu.xii.jp/syu_f/Simizudaniseirensyo_.html)</p>								
管理者等のHP (URL等)	大田市 http://ginzan.city.ohda.lg.jp/wh/jp/prof/oomori.html								